

P 2 療育園建替に伴う補助金の内示について
落のとう舎の浴室改修

P 3 新たなソフトを使用して

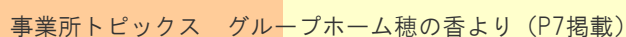
P 4 コロナ禍での新たな取組み
茨城県障害者雇用優良企業に認定されました

P 5 ご利用者様紹介

P 6 『NHKいば6』にて落のとう舎が紹介されました！
9月 防災月間

P 7 事業所トピックス

P 8 ご寄付をいただきました
新しい生活様式へ
もうすぐ50周年を迎えます
託児所ひばりが小規模保育園に移行します（予定）
芳香会スケジュール
編集後記



療育園建替に伴う補助金の内示について

【補助金内示額】

～医療型障害児入所施設の施設整備～
(芳香会病院青嵐荘療育園)

補助額	328,700千円
内訳) 国	219,133千円
県	109,567千円

～生活介護の施設整備～

(青嵐荘療育園通所事業所)

補助額	54,000千円
内訳) 国	36,000千円
県	18,000千円

補助金合計 382,700千円

1982年4月重症心身障害児施設として誕生してから38年、時代の変化と共にハード面の整備が急務となりました。

2016年6月の第1回建替会議から4年の検討を行い昨年9月補助金事前協議書を茨城県障害福祉課へ提出致しました。

2020年7月、茨城県障害福祉施設整備費補助金の内示を頂きました。今年は芳香会設立50年。本事業は「芳香会Next50芳香会病院青嵐荘療育園2020建替事業」として、現療育園北側に鉄筋コンクリート造2階建約4,600㎡の建物を予定しています。

(芳香会病院青嵐荘療育園 坂場)

落のとう舎の浴室改修

設立28年を迎えました。設立当時のご利用者の多動行動に戸惑い、そして、20数年が経過し落ち着いてくると次は病気と怪我が心配の種となってきました。

約3年前よりご利用者の行動、ADLの低下を感じ、重度・高齢化対策を進めてきました。施設全体がバリアフリーでなかったため、設備の改修とバリアフリー化を3期に分けて改修してきました。

1期目がトイレの改修で4か所のトイレを車いす対応のトイレに改修しました。2期目の改修は、車いす利用のご利用者が1割から2割弱と多くなったため食堂前の廊下に手すりを付け、また、万が一転倒しても大きな事故につながらないように、ソフト床に張替え、そして、壁紙やドアを全て改修し、快適な環境作りを目指しました。そして、最終期に浴室の改修をしました。男女別々の浴室を一つの浴室にし、大小さまざまな4つの浴槽を設置し、ADLに合った浴槽を選ぶような浴室に改善しました。特に中間浴槽を設置したことで、高齢者の方、発作を起こしやすい方、足元にふらつきのある方には安全に、そして快適に入浴を楽しんでいただいております。最初は慣れないご利用者もありましたが回数を重ねるごとに慣れて楽しめるようになってきました。

今回の改修でご利用者・職員からも好評な意見を頂いております。これからも、入居棟の改修等を含め、ご利用者一人一人の居住空間を考え、そして、ICT化を進め、暮らしやすく健康に暮らせる施設づくりを目指してまいります。

(青嵐荘落のとう舎 小倉)

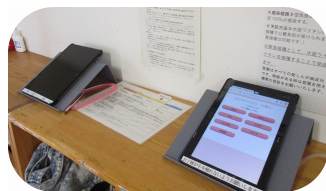


▼新たなソフトを使用して

今年新たなソフトを導入した施設をご紹介します

登陸園登録システムを導入しました

牛ヶ谷保育園・たま保育園



二保育園では、今年度より登陸園管理システムの稼働をはじめています。ソフトを使用すると最初は色々と課題がでてくるので、まずはたま保育園が先行し、課題発見と解決を行い、その後牛ヶ谷保育園が開始しました。そうすることでこれまで見つけれなかった課題に気づく事ができ、使い方がより改善することができています。

導入のきっかけは、事務員の請求業務の負担軽減です。延長保育料金や一時預かり料金の請求業務には、日々の登園時間と降園時間の入力が必要でした。該当園児数分入力しなければならぬので、二園とも一か月辺り約三十名分の時間入力が毎日必要でした。しかし、今回登陸園管理を導入したことで、保護者の方が記入した時間を手入力するのではなく、保護者の方がタブレットで打刻した時間が計算に反映されるので、手入力の負担軽減を図ることができました。請求書の作成に係る時間も大幅に削減できています。

導入後保護者の方からは、「時間を書かずにすむので楽になった」「ここまでシステム化が進まなくても」など反応は様々。保護者の方同様、職員間でもシステムを使い始めることに、戸惑いや不安を感じられます。使用開始スタートの年。職員も保護者の方と共に使い慣れるように、丁寧にするめていき、今後は、保育日誌のシステム化に向かう計画をしていきます。(中山)



Soeasy Buddy

導入について

青嵐荘特別養護老人ホーム



インターネットの普及により私たちの生活は急速に変化をします。特にコロナ禍もあり、仕事や授業までもがリモートという時代です。その変化に私たちが対応することが出来るのでしょうか。多くの情報が飛び交う世の中、自分に必要な情報をより早くキャッチし、次に繋げることが出来るのか。そこには目標や使用する環境、技術が必要です。

その実演として特養では①研修の教材資料②情報の共有化をテーマとして「soeasy buddy」というSNSソフトを導入しました。必要な情報や教材を「いつでも」「どこでも」手持ちのスマートフォンや、大きなパソコン画面で確認を行う等、職員誰もが「すぐに」見られる。そして言葉だけでなく動画や写真を使いながら、海外の方も含め「誰でも」分かりやすい資料の反復学習が出来る環境を目指します。施設の情報提供や資料のキャッチはソフト上で行い、対面での会話は最初から話すのではなく、ある程度の基本を理解した上で、細かな内容確認をコミュニケーションとすることが目的です。

知識や技術を学ぶからこそ新しい発想が生まれ、自分自身を向上させることに繋がります。時代に必要とされる技術を身に付けることは、支援を必要とする人への「なぜ」や「どうすれば」の追求心と、学び続ける福祉の心を、次代に繋ぐという私たちの理念実現に必ず必要な技術と信じています。(富張)

相談事業所のICT化に向けて

青嵐荘つくし園 相談事業所

当事業所では、令和二年二月より音声入力システムvoice fanを搭載したタブレット(Surface Go)の導入を致しました。なぜ導入したかというと、訪問がメインの業務であり、移動に時間を費やしている事や記録作成の時間が十分にとれない事が課題であり、これらについて業務の効率化を期待しました。

まずはvoice fan使用に慣れる為に、ミーティング時の予定等の入力や、事業所内での会議録作成に活用しました。音声変換がスムーズにいかず、修正が必要となる課題がありますが、困難ケースや複雑な調整を伴うケース報告において、詳細な会議録の作成が可能となり、作成時間の短縮にも繋がりました。

いよいよ出先での使用を検討した矢先に新型コロナウイルスの感染拡大となつてしまいました。それでも、他の活用方法を模索する中で、Zoomによるオンライン会議においても同時にvoice fanが使用できることがわかりました。実際に事例検討会の際に事例提供事業所へ持参し、活用をする事ができました。

今後は更なるvoice fanの活用に向けて、まずは使い慣れていくことが大切だと思われれます。そして随時、業務効率の成果を確認しながら、次のステップを検討していきたいと考えています。(杉野)



コロナ禍での新たな取り組み

「オンラインによる研修会を開催して」

芳香会では、二〇一八年から「高齢・認知知的障害者の支援のあり方を学ぶ」をテーマに、「障害者福祉セミナー」を開催しております。

第三回となる今回は、九月二十六日(土)に「親亡き後の高齢知的障害者の意思決定支援」について、山梨大学大学院 総合研究部附属出生コホート研究センター 篠原亮次教授にご講演いただきました。

過去二回は社会福祉法人茨城県社会福祉事業団(水戸市)との共催でしたが、今回は新たに社会福祉法人勇成会(水戸市)にも開催の趣旨にご賛同いただき、三法人による共催で行いました。

今回は今年三月から準備を進めてきましたが、準備が進むにつれコロナ感染症の蔓延が深刻化し、六月の段階で集合形式からオンライン形式での開催に変更しました。芳香会としては初めての試みで、手探りの状態での準備でしたが、篠原教授にご協力いただきリハールを繰り返したり、IT専門の業者の方にセミナーで使用するパソコン等機材のチェックをしてもらうなど、三法人で知恵を出し合いながら準備を進めてきました。

セミナー当日は、オンラインの接続に関する問い合わせに対応するために専属の職員を配置するなど、様々なトラブルを想定しておりましたが、大きなトラブルもなく、好評のうちに終了することができました。

オンラインでの開催により、日本全国、遠くは沖縄県から九十三名の方のお申し込みいただきました。この経験を糧に、今後もオンライン研修を充実させていきたいと思っております。

(芳香会社会福祉研究所 酒寄)

「福祉村サミット会員法人との交流 「就労支援事業所の納豆購入」

宇留野理事長より、北海道にある社会福祉法人黒松内つくし園羊蹄セルプで販売している納豆について、ご紹介頂いた事から始まりました。

障がい者就労支援施設羊蹄セルプは、仕事に就きたいという障がいをお持ちの方に作業を提供し、職業リハビリテーションを行う施設です。地元倶知安町(くつちゃんちょう)の納豆製造者「ふじた納豆」を継承して納豆作りを始め、現在生産している「くつちゃん納豆」は納豆鑑評会で優秀賞を獲得するほどの美味しさです。

そうした中、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、納豆の納品が減り、生産活動収入の減少だけでなく、働く方達の工資も下げざるを得ない状況であること。そして、職員一同それだけは避けたいという思いから、たくさんの方達の事業所・地域の方達に購入の協力を頂いている事を知りました。

そこで、当法人でも商品の購入を通じて継続的な支援が行えるよう、全施設で納豆の使用を開始することに致しました。月に二〜三回の使用となりますが、ある職員から「納豆鑑評会で賞を頂くほどの納豆はどのくらい美味しいのだろう」「これはどこの納豆?」といった声を耳にするなど、関心の高さが窺えました。

是非、この機会に「くつちゃん納豆」をご賞味頂き、食べて繋がる支援の輪に参加してみたいかがでしょうか。

(芳香会病院青嵐荘療育園 丹治)
※詳しくは「羊蹄セルプ ナイスハート ネット北海道」で検索!



茨城県障害者雇用優良企業に 認定されました

二〇二〇年七月二十一日に障害者雇用に関する取り組みが評価され、茨城県知事より「茨城県障害者雇用優良企業」として認定されました。

「茨城県障害者雇用優良企業制度」とは、障害者雇用に積極的な企業について、県が認証マークを交付し、これらの企業を顕彰するとともに、取組内容を公表することにより、県内の他の事業者への波及や、障害を持つ方々への有益な就職情報の提供を図り、障害者の就労促進を図ることを目的としています。

芳香会では現在十一名の障害者を持つ方が働いております。今後とも障害者に配慮した職場環境の改善に取り組み、地域や社会で必要とされる企業になるように努めて参ります。

(法人本部 吉金)



障がい者雇用優良企業

ご利用者様紹介

特別養護老人ホーム



祝101歳♪

大正8年6月23日生まれ
小林 なつ 様



祝100歳♪

大正9年3月10日生まれ
小林 きみ様



祝100歳♪

大正9年10月21日生まれ
爲我井 勝太郎 様

養護老人ホーム



祝92歳♪

昭和3年5月26日生まれ
齋藤 昭子 様

敬老の日お祝い会

敬老の日の9月21日に施設のご利用者様と一緒に長寿のお祝いをしました。
今年はコロナウイルス感染拡大防止の為、開催方法を工夫しながら行いました。

このページでは各施設の最高齢の方をご紹介します😊
これからもお元気で長生きしてくださいね♪

ケア・アシスタンス



祝101歳♪

大正8年12月21日生まれ
諏訪 きち 様



祝100歳♪

大正9年3月8日生まれ
山中 すい 様



祝100歳♪

大正9年5月2日生まれ
小山 ハルエ 様

『NHKいば6』にて落のとう舎が紹介されました！

2020年9月16日(水)NHKいば6にて落のとう舎のご利用者様がセラピーロボットパロを利用している様子が紹介されました。撮影日は、NHKクルーと開発者の国立研究開発法人産業技術総合研究部門上級主任研究員柴田崇徳先生が来園し、実際にご利用者様の様子を見て頂いたり、職員がインタビューを受けたりしました。番組では、コロナ禍のストレスを緩和させるセラピー効果の説明をされていましたよ。また、青嵐荘療護園でもパロを利用しており、読売新聞社から取材を受けました。今後も様々なロボットを利用し、作業の効率化を図ったり、ご利用者様や職員の心の支えにしたりと活用していきたいと思います。



9月 防災月間

毎年9月は防災月間です。また、9月1日は防災の日です。芳香会には、5人の防災士がおります。法人内はもちろん、有事の際に地域の皆様にお力添えが出来るよう活動していきたいと思っています。

【合同防災訓練】

2020年10月7日(水)茨城新聞18面地域アラカルトにて9月30日(水)に実施した結城市七五三場地区の自主防災会と芳香会の合同防災訓練の様子が紹介されました。県土木部の防災担当者の方と、芳香会職員(防災士)が出前講座を開催し、災害が起こるメカニズムや災害時の対応について学びました。会報48号でもご紹介した通り、芳香会と自主防災会は今年3月に災害時における対応に関する協定を締結しました。締結後、初めての合同訓練でしたが、今後も自主防災会と連携し防災意識を高めるとともに協力体制を強化していきたいと思っています。



ありがとうございました😊

「令和2年7月豪雨災害募金」へのご協力を頂き、ありがとうございました。7月13日～7月31日の19日間、法人内10事業所に募金箱を設置し、57,009円集まりました。お預かりした募金は、社会福祉法人中央共同募金会を通して被災地へ寄付させて頂きました。

ベルマーク回収を開始しました！

新たなボランティア活動の1つとして、ベルマーク回収を始めました。集めたベルマークは「寄贈ベルマーク」として被災地に寄付します。細く長く継続していけるようご協力をお願いいたします。

以下の10事業所に回収箱を設置しています

- ・法人本部
- ・ケア・アシスタンス
- ・療育園
- ・養護老人ホーム
- ・療護園
- ・特別養護老人ホーム
- ・落のとう舎
- ・牛ヶ谷保育園
- ・つくし園
- ・たま保育園



「地域の方々との関係づくり」

グループホーム穂の香

グループホーム穂の香は二〇〇五年四月一日に開所し、十五年となります。この十五年では、二〇一二年に発生した「東日本大震災」、二〇一五年九月九日には「関東・東北豪雨」と災害に見舞われましたが、大きな被害



は免れました。この様な災害が近年頻発している事から今年度には「七五三場自主防災組織」が発足されました。今年の九月三十日に「七五三場自主防災会」と「社会福祉法人 芳香会」合同で防災訓練を行いました。内容としては、茨城県土木部河川課水防災・砂防対策室の方の出前講座や七五三場防災会による応急担架の作成方法・芳香会職員による車椅子の使用方法などについて行いました。今後定期的な訓練などを通し、災害などの際には地域住民の方々とお互いに助け合えるような関係づくりを目指しております。また、地域交流では、共同の枝

切り作業や、子供会では「お神輿」を披露して頂いております。これからも、地域の方々との交流を図り、グループホーム穂の香が地域に必要な不可欠な存在になれる様、様々な働きかけを行いたいと思います。(中島)

「ポジティブDAY」

青嵐荘特別養護老人ホーム



職場環境改善員の目標は「職場をよくしたい」の想いを一心に、様々なチャレンジをしていくことです。その一つが「ポジティブDAY」です。

介護業界はネガティブイメージが強いと思われませんが、現場を観察すると「疲れた」「しんどい」「辛い」等々挨拶の如く発せられる自分たちの言葉にも原因があるのではと考えました。そのような環境は良いものではありません。そこで考案したのが「ポジティブDAY」。月に一日を前向きなマインドを意識的に作る日と企画しました。

ネガティブな発言をすると、深呼吸やスクワットと気持ちを切替える時間を作ります。また、職員間の会話のきっかけでもあり、前向きな考えを持つ職員がポジティブであればご利用者への声掛けが明るくなります。それはケアの質も向上し、職員のやりがいにつながります。委員の目標はこの連鎖の拡大です。開始間もない企画ですが、介護業界のポジティブな未来を作れる企画と信じて、楽しみながら実践しています。(中川)



「ちいさなすいぞくかん」

たま保育園

たま保育園の水槽には、「ウーパールーパー」「めだか」「金魚」「ザリガニ」「カブトムシ」がいます。初夏にメダカの卵が孵化し、最近ではザリガニが卵を産んだようです。

金魚は、乳児クラス(〇〜二歳児)の部屋の近くにいます。水槽を床に置いていますが、子どもたちはうつぶせの姿勢になったり、かがんだりして体勢を変えながら水槽に顔を近づけてみています。その姿からは「少しでも金魚に近づきたい」そんな気持ちが伝わってきます。部屋から部屋への移動の際は、みんなでちよっと寄り道をしています。その時に繰り返し「金魚いたね」などそこにいる魚が金魚であることを保育士は繰返し伝えていきます。もう、一、二歳児さんは「金魚」という言葉を覚えて話してくれるようになった子もいます。

たった一つの小さな水槽。乳児クラスの子どもたちにとっては、屈伸動作を覚えたり、腕の使い方が工夫できたり、言葉を覚える為の大切な環境の一つになっています。

先日、園庭の草取りをしていたら一人の男の子が「バツがいなくなっちゃうからとらないで」と。大人と子どもが必要とするモノの違いに戸惑いつつ、ちよっとだけ草を残してみました。これからも、生き物との関りを大切に育んでいきたいと思っています。(中山)



ご寄付をいただきました

七月十七日、結城南中学校の生徒会様より特別養護老人ホームに手作りマスク三十枚と不織布マスク二十枚を頂きました。ありがとうございます。

生徒会長の間中夏子さんからは、「少しでも地域の方々のためになればと考え、マスクを集めた。ぜひ使ってください。」とコメントを頂きました。

コロナ禍で大変な中ですが、地域の方々に支えられて日々過ごしているなど実感する一場面でした。

※この日の様子は、七月二十二日の茨城新聞十八面に掲載されました。

新しい生活様式へ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンラインでの会議や打ち合わせ、各職種の研修などが増えています。

芳香会職員も初めは操作など不慣れな点もありましたが、使っていくうちに慣れてきて便利さを実感しています。今後の目標は、全職員オンラインに対応出来るようになること！一人ひとりのスキルは違いますが、社会の変化に柔軟に対応出来るよう努力していきたいと思っています。

もうすぐ五十周年を迎えます

芳香会は、二〇二〇年十二月二十五日に五十周年を迎えます。二〇二〇年がこんな年になるなんて予想もしていませんでしたが、地域の皆様とともに五十周年を迎えられることを大変嬉しく思います。今後とも、末永くよろしく願います。



託児所ひばりが小規模保育園に移行します(予定)



二〇二一年四月より、託児所ひばりが小規模保育園（乳児のみの認可園）に移行する予定です。詳細は、古河市作成の幼稚園、保育園一覧のガイドブックにも載っておりますので、そちらをご確認ください。また、入園に関しても古河市役所子ども福祉課へお問い合わせください。

「園名に込めた想い」

「ひばり」は茨城県の鳥でもあり、「天高く舞う春の天使、その歌うさまはのどかな中にも希望を沸かせる力強さがあり、また、麦作が盛んな茨城の環境に調和し、親しまれている鳥」という理由で選ばれたそうです。「このひばりのように育って欲しい」と願いを込めて園名にしました。



芳香会スケジュール

十一月	四日	上大野地区秋季合同植栽活動
十一月	七日	評議員会
十一月	十日	苦情受付体制委員会第一回法人内研修
十一月	十三日	交通安全講習会
十一月	二十四日	令和二年度第一回移動献血事業
十二月	十八日	実務研究発表会

(法人内職員のみ)

編集後記

ラジオの放送でアラスカの原住民とアザラシ狩りに同行した時の話です。数日経過しても捕獲できず、やっと一頭が捕獲できたので、帰るのかと思ったら原住民が「三頭捕獲しないと、帰らない」と言い張り、帰路は他の原住民に同船させて貰ったそうです。私たちの時間の使い方と心のゆとりが必要との苦言でした。(光)

収穫の秋になりました。古河市においては、稲刈りが早いところでは八月下旬頃から始まっていることに東北出身の私は驚きます。私の実家も稲作をしておりますが、九月下旬から十月上旬に稲刈りを始めます。気候や稲の品種によっても、収穫時期が結構変わってきますね。

(剛)

おうち時間で、オンラインレッスンや動画を見ながらヨガをするようになりました。一時期ヨガ教室に通っていましたが結局続かず、今度こそ継続したいと思っています。ヨガをした後は心身ともにリフレッシュ出来るので、お勧めですよ。(礼)

先日、ドッグランへ出掛けました。犬と飼い主と一緒にダンスを踊る「ドッグダンス」の発表会が行われており、犬と飼い主の息のあったダンスに会場中拍手喝采でした。おやつが大好きな子ならば出来るようになるので、我が家でもチャレンジしてみようかと考えています。(麻)



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会

〒306-0201 茨城県古河市上大野698

TEL 0280-97-1027 (代) FAX 0280-97-1112

ホームページ <http://www.houkukai.or.jp> メールアドレス honbu@houkukai.or.jp

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。